

# シンポジウム「モバイル'16」プログラム

3月10日(木) 10:00 受付開始

B会場：多目的室	C会場：中会議室
10:20~12:00 <b>AR</b> 川野常夫(摂南大学)	10:20~11:40 <b>行動支援</b> 大森正子(神戸女子大学)
1111 ARを実現するシースルー型スマートグラスを用いた作業効果の検証 遠山貴大, 木村瞭太(名古屋大学), 戸谷貴洋, 宮尾敏明(セイコーエプソン(株)), 小島健仁(名大), 石尾広武(福山市大), 森田一三, 木下史也, 山川達也, 宮尾克(名大)	1211 父親の子育て情報共有コミュニティの形成 橋川春菜, 遊橋裕泰(静岡大学情報学部)
1112 シースルー型スマートグラスに表示した画像観視時の水晶体調節応答 木村瞭太, 遠山貴大(名古屋大学), 戸谷貴洋, 宮尾敏明(セイコーエプソン(株)), 小島健仁(名大), 石尾広武(福山市大), 森田一三, 木下史也, 山川達也, 宮尾克(名大)	1212 子育てにおける父親参画促進のためのアプリケーションサービスの検討 小山遥, 遊橋裕泰(静岡大学情報学部情報社会学科)
1113 拡張現実環境における空間タッチパネルインタフェース設計ガイドラインの検討 若狭溪一郎, 古川宏(筑波大学)	1213 共働き世帯の子育てを支援するスマホアプリの検討 杉山遼介, 遊橋裕泰(静岡大学情報学部)
1114 MOVERIO の開発経緯と民生/業務向け利用シーンの紹介 宮尾敏明, 戸谷貴洋(セイコーエプソン株式会社)	1214 学生のスマートフォン使用時間と安全意識及び行動の関連 植村明生(文教大学), 植村珠枝(筑波大学大学院)
1115 拡張現実を用いたピアノ学習支援アプリの検討 鈴木隆史, 古川宏(筑波大学)	

13:15~ 平成 28 年度通常総会[小会議室] 出席条件:事前にご案内差し上げましたモバイル学会の正会員

A会場：講堂
13:30~14:40 特別講演 司会:赤松 幹之(産業技術総合研究所) 『社会機能を引き出し安全知識循環をエコシステム化する~キッズデザイン産業のケーススタディより~』 西田佳史((国研)産業技術総合研究所)

B会場：多目的室	C会場：中会議室
15:00~17:20 <b>災害とモバイル</b> 古川宏(筑波大学)	15:00~16:20 <b>生理・心理</b> 岡田明(大阪市立大学)
1121 大都市におけるスマートフォンを用いた防災情報システムの開発 廣井悠(名古屋大学減災連携研究センター)	1221 タブレット端末使用における弱視者の体性感覚利用 永井正太郎, 岡田明(大阪市立大学大学院生活科学研究科)
1122 災害情報収集・活用システムの開発について 丹羽一輝, 廣川典昭, 大佛俊泰(東京工業大学大学院)	1222 立体映像による複数物体追跡課題の生理・心理効果 佐竹秀一(立命館大学大学院), 萩原啓(立命館大学)
1123 被災地公共広報システムの現状と発展 金原大河, 遊橋裕泰(静岡大学情報学部) <休憩 20分>	1223 注意機能の差異および二重課題の過負荷が脳内血行動態と呼吸数、心拍変動に与える影響 長澤大志(立命館大学大学院), 萩原啓(立命館大学)
1124 災害復興過程における防災教育・津波避難訓練でのモバイル・ICT 機器活用 杉安和也, 松本行真, 柴山明寛, 安倍祥(東北大学災害科学国際研究所), 平田萌々子, 昆周作, 伊藤大樹, 松岡祐也, 佐々木隼相, 磯崎匡(東北大学文学研究科)	1224 聴覚的な時間的圧迫が生理・心理状態に及ぼす影響 藪亀順平(立命館大学大学院), 萩原啓(立命館大学)
1125 閲覧時刻からみた情報配信システムの有用性評価 岩ヶ谷優汰, 遊橋裕泰(静岡大学)	16:30~17:30 <b>アプリ</b> 小島健仁(中部学院大学)
1126 東北地域住民の良心が支える ICT 買い物支援ビジネス 小川哲司, 遊橋裕泰(静岡大学情報学部)	1231 モバイルアプリにおける効率的なカード探索-外国人児童向け日本語学習教材を例に- 長谷川旭, 長谷川聡, 生田一真(名古屋文理大学), ランソン ポール レジエ, 宮尾克(名古屋大学大学院)
	1232 リカレントニューラルネットを用いたアプリ市場予測の検討 小池優希, 兼松篤子, 浦田真由, 遠藤守, 安田孝美(名古屋大学), 水野政司(クエリーアイ株式会社)
	1233 検査者の恣意性や虚偽性を排除する多点 LED 式フリッカー検査装置の開発 福井裕, 川野常夫(摂南大学理工学部)

交流会:語り合う『モバイルが拓く未来』田村博研究奨励賞 表彰式

2016年3月10日(木) 18:30~ オークラフロンティアホテルつくば本館2階カフェテラス「カメラア」

10:00 受付開始 **3月11日(金)**

<b>B会場：多目的室</b>	<b>C会場：中会議室</b>
10:20~12:00 <b>モバイル×ビッグデータ-その先の課題を考える-</b> 遊橋 裕泰(静岡大学 大学院総合科学技術研究科)	10:20~11:40 <b>移動</b> 大門樹(慶應大学)
2111 オープンデータ/ビッグデータが実現するサイバーフィジカル融合社会(仮) 曾根原 登(国立情報学研究所) 「モバイル×ビッグデータ」の新たな課題 遊橋 裕泰(静岡大学大学院総合科学技術研究科) クラウドサービスの可能性とローカライズの必要性(仮) 御手洗 大祐(rakumo 株式会社) 法的検討から見た統合マネジメント環境の必要性 加藤尚徳(株式会社 KDDI 総研調査1部) <b>パネルディスカッション</b> 曾根原 登(国立情報学研究所 情報社会関連研究系) 加藤尚徳(株式会社 KDDI 総研調査1部) 御手洗 大祐(rakumo 株式会社) モデレーター：遊橋 裕泰(静岡大学)	2212 超小型モビリティのヒューマンマシンインターフェースの基礎的研究 -情報提示機器とコンテンツの影響- 藤山凜太郎, 大門樹(慶應大学), 安部信一, 諸山和弘(道路交通情報通信システムセンター) 2213 先方車群情報が発進時の車両挙動に与える影響 松本修一(文教大学) 2214 大型車両通行モニタリングにおけるETC2.0プローブ情報とWIM重量計測データの活用検討 築地貴裕, 鈴木彰一, 牧野浩志 (国土交通省国土技術政策総合研究所 ITS 研究室) 2215 遅刻の内的要因と外的要因に考慮した事前行動開始支援システム 津田啓史, 渋谷雄(京都工芸繊維大学)

<b>A会場：講堂</b>
公開セッション <b>自動運転社会の実現に向けた Human Factors 研究最前線</b> -産総研自動車ヒューマンファクター研究センターの取り組み- 赤松幹之((国研)産業技術総合研究所)

13:30~15:00 特別講演 <b>『自動運転によるモビリティ社会の将来(仮)』</b> 清水和夫(自動車ジャーナリスト)
--

15:00~15:20 講演 1:なぜ自動運転で Human Factors 研究が必要か? 北崎智之(研究センター長)	<b>C会場：中会議室</b>
15:20~15:40 講演 2:自動運転の研究開発の歴史 加藤晋(知能システム研究部門 フィールドロボティクス研究グループ長)	15:00~16:40 <b>ユーザビリティ</b> 長谷川聡(名古屋文理大学)
15:40~15:55 講演 3:自動運転中のドライバー状態の評価方法 武田裕司(認知システム研究チーム長)	2221 腕時計型デバイスに適した文字入力手法 尾崎尚人, 本多信吾, 田中敏光, 佐川雄二(名城大学)
16:00~16:15 講演 4:自動運転制御と情報提示がドライバーに及ぼす影響 小峰秀彦(生理機能研究チーム長)	2222 モバイル端末における注視点移動にともなう3D 立体映像の見やすさ 小嶋健仁, 采女智津江, 杉浦明弘, 森田一三, 宮尾克 (名古屋大学情報科学研究科)
16:15~16:30 講演 5:自動運転システムへの信頼性と制御範囲外でのドライバー反応 岩木直(副研究センター長)	2223 照度環境および水晶体白濁度に着目したモバイル端末の可読性評価 岩田光平, 石井佑樹, 松波紫草, 石尾暢宏(名古屋大学), 小嶋健仁(中部学院大学), 宮尾克(名古屋大学)
16:30~16:45 講演 6:ドライバーパーソナリティと自動運転の嗜好 佐藤稔久(行動モデリング研究チーム長)	2224 モバイル端末における文字サイズの最低下限文字サイズの検討 石井佑樹, 岩田光平, 石尾暢宏, 松波紫草, R.Paul Lege(名大) 小嶋健仁(中部学院大学), 宮尾克(名古屋大学)
16:45~17:00 講演 7:自動運転車の開発とデモ走行 調整中(トヨタ自動車)	2225 医療向け多言語翻訳アプリのユーザビリティ 長谷川聡, 長谷川旭(名古屋文理大学), R. Paul Lege, 宮尾 克(名古屋大学),高須拳斗, 坂井由紀, 杉田奈未穂, 加藤啓介(株式会社エスケーワールド)
17:10~17:45 AHFRC レクチャー:自動車ヒューマンファクター研究が目指すべきこと 赤松幹之(首席研究員)	

※公開セッションのみの参加は無料です(事前参加登録は不要)